

大野版DMO設立検討委員会 論点整理（事務局・大野市商工観光振興課）

【前提】

大野版DMO設立検討委員会設置要綱（平成30年4月13日大野市告示第136号）に基づき、観光を産業の柱とするための舵取り役となる大野版DMOの在り方について検討を行う目的で設置

【委員構成】 検討委員会は下記の観光関連事業者・団体から推薦された11名で構成（一社）大野市観光協会、越前信用金庫、大野観光自動車株式会社、大野市菓子組合、大野市商店街組合連合会、大野商工会議所、大野市旅館組合、大野麺類組合、（株）メンテナンスナカムラ、九頭竜森林組合、テラル越前農業協同組合

【第9回】（平成31年3月5日）

○委員長挨拶

- ・先月、六呂師高原で実施されたスカイランタンは非常に魅力的なイベントだったと思う。「いろんな事業者が協力して利益を得ながらお客様を受け入れる」というのは、まさにこの委員会で議論しているDMOの目指す役割ではないかと思う。
- ・本日の委員会が最終となる。事業案を考えて来ていただいていると思うので、積極的にご意見いただければと思う。

○議事 新会社の収益事業について

- ・旅行会社から昼食依頼が入ってくるが、規模の小さい店舗はなかなか取引の仕組みわからない。旅行会社との間に入って調整をしてもらう役割があると良い。手数料の差益でDMOが収益あげられないか。
- ・関西・中京からの旅行会社からの問い合わせ多いことから、朝それぞれの場所を出発した時にちょうど大野がお昼の時間帯に当たるのではないか。
- ・ランタンイベントの時、中国からのツアー客が何グループがいた。メディアの情報によると、インバウンドのリピーターほど地方に行く傾向があるようだ。リピーター向けのツアーを企画するのもありではないか。
- ・ECサイトの統合など、第3セクターの重複している役割を整理してまとめた事業をDMOが担うという考え方もあるのではないか。
- ・そのためには行政との信頼関係築ける組織でないといけない。
- ・きのご菌床の菌打ち体験を提供してはどうか。森林組合では宝慶寺いこいの森で体験を実施したことがある。
- ・長野県の伊那市にキノコ王国と銘打って年間3万人を動員している事業者もいる。
- ・まち会社で商品引換券付きのマップを販売しているが、黒字になっている。インバウンド向けのまち歩き商品としてありではないか。

- ・新しい道の駅完成後、まちなかの観光客が減る恐れもあるので、まち歩きを重視し、インバウンドも取り込めると良いのでは。
- ・商工会議所にステージが併設されている。お城も見えてロケーションも良いので、カフェ経営しても面白いかな。
- ・直接的な収益につながらないかも知れないが、おもてなしの部分で人材育成に取り組めないか。
- ・自分の宿が満室だった時に宿泊事業者間でお客さんを弾力的に受け入れる体制づくりが必要。
- ・JR 利用者に対する 2 次交通の充実が必要。
- ・大野城宿泊プランの実現。インパクトあり、インバウンドにも受けるのではないかな。市内の旅館での前泊をセットで。2 泊 3 日で体験、宿泊、食事。参加費 10 万円。1 グループ貸切。年間 150 回の稼働を目指す。専用タクシーで移動。
- ・山菜採りとワサビ漬け体験、鮎釣り体験（あみ釣り）、など体験の予約窓口、案内を担うのはどうか。
- ・天空の城案内、朝食をセットにして商品を販売する。専用タクシーによる大野城の遊歩道通行を可能にする。
- ・イギリス人のお客さんから「大野城に泊まれたら」という意見をもらったことがある。
- ・蕨生小学校や裁判所などを改修して簡易宿泊施設に出来ないか。
- ・宿泊に色々な体験など組み合わせてセット商品で売り出せないか。
- ・お城に宿泊が無理でも、亀山でのテント泊は可能ではないか。
- ・遊休地を利用して BBQ スポットを作れないか。ウッドデッキ並べて周りヤシの木で囲むなど雰囲気作りもして。田んぼの遊休地でも、亀山でも、市役所の屋上とかもあり。
- ・全国の事例を見ていると山形の DMO では金融事業としてファンドを組成している。誰かが一歩出て成功した時、ほかの事業者もついてくる可能性はある。その時に金融面での支援も必要なのではないか。
- ・キャッシュレス決済の導入を代行してはどうか。キャッシュレス導入に二の足を踏むのは手数料のことがある。
- ・旅行会社と付き合いがあると、旅行会社に手数料払うか、カード会社に払うかの違いという認識。
- ・一次的なイベントであれば、クレジットカードの手数料率を一時的に下げるようなこともカード事業者はやっている。
- ・旅行会社に事業をどうやって売ってくるかという考え方も大切。体験や宿泊など組み合わせでどう営業をかけていくか。誰が売っていくのかというのが大切になるのではないかな。
- ・観光協会が母体になれないのか。会員さんもある程度おり、事務員もいる。旅行業で稼ぐにはボリュームが小さいかもしれないが。
- ・既存組織の衣替えというよりは発展的解散して新会社設立した方が良い。

- ・「やっても無駄だろう」ではなく「やってみよう」という考え方が、観光業に踏み込む上で大事な切り口になるのではないのか。
- ・自社で旅行会社にセールスする営業マンを抱えている。委員の皆さんが事業で提供している食事や体験をセットで営業をかけることを考えていきたい。
- ・現状、提言書に明記した新会社の設立には至っていないが、この委員会のメンバーはじめ、民間事業者が人口減少やそれに伴う売上の減少などに対する危機感を持ち、事業者間や所属団体などで協力しながら、観光誘客に取り組んでいくことが必要であるのは間違いない。その視点を持って、この委員会で出来たネットワークを活かしながら、今後も事業に取り組んでいきたい。